

「気候情報に関する東京会議」の開催について

気象庁は、本年 7 月に、「気候情報に関する東京会議～より良い気候情報による安全・安心・持続可能な社会を目指して～」を開催します。この会議では、気候情報を活用した気候変動による影響への適応の推進に向けて検討を行い、国際的な気候変動対策に関する新たな枠組み作りに資する提言をまとめます。

国連気候変動枠組条約第 15 回締約国会議（COP15；本年 12 月、於コペンハーゲン）は、地球温暖化の緩和策に加えて適応策も含めた京都議定書後の地球温暖化対策の合意を目指して開かれます。世界気象機関（WMO）は、これをはじめとする気候変動への適応等に不可欠な気候情報（季節から 10 年規模の予測情報等）の利活用に関する世界的な枠組みの構築に向けて、各国の閣僚級が参加する「第 3 回世界気候会議（WCC-3）」（別紙 1）を本年 8 月末～9 月に開催します。

気象庁は、この気候情報の利活用に関する世界的な枠組み作りに貢献するため、平成 21 年 7 月 6 日（月）～8 日（水）に、より良い気候情報による安全・安心・持続可能な社会を目指して「気候情報に関する東京会議」を開催します（別紙 2）。同会議では、アジア太平洋地域の気象機関と気候情報利用機関（農業、水資源等の気候に係る分野）等（26 カ国、52 名）を招いて、両者の連携の抜本的な強化による利用者本位の気候情報提供・利用に関する枠組みの構築について検討を行い、気候変動による影響への適応の推進に貢献します。最終日（8 日）には、気候情報の利活用の現状と見通し等について、広く一般の方にも知っていただくとともに、世界第一線の研究者も含め幅広い意見をもとめるため、公開シンポジウムを開催します（別紙 3）。会議の成果は、WCC-3 に向けた提言としてとりまとめる予定です。

問い合わせ先： 総務部企画課国際室
電話： 03-3212-8341（内線 2262）

「第 3 回世界気候会議 (WCC-3)」について

世界気象機関 (WMO) は、他の国連機関や我が国を含む各国政府の協力により、気候に関する科学的な情報 (季節から 10 年規模の予測情報など) の活用の促進を通じて、気候リスク管理や気候の変化・変動による影響に対する適応への貢献を図るため、第 3 回世界気候会議 (WCC-3) を開催します (平成 21 年 8 月 31 日～9 月 4 日、スイス・ジュネーブ)。

WCC-3 は、専門家会合とハイレベル会合から構成されます。専門家会合では、気候情報の提供者、利用者、気候研究者等の参加により、水資源管理、農業・食糧、交通・観光等の気候に係る分野ごとに、気候情報の利活用の推進に向けた議論が行われます。ハイレベル会合では、各国の首脳・閣僚級の参加により、閣僚宣言が採択されます。

WCC-3 の成果としては、気候情報の提供者と利用者の双方向の連携を世界規模で図ることにより、気候情報をあらゆるレベルの政策や意思決定のために適切に提供することを目的として、「気候サービスのための世界的枠組み」の設立が検討されています (閣僚宣言に盛り込まれる見込み)。

過去に 2 回開催された会議の概要は以下の通りです。

○ 第 1 回世界気候会議 (1979 年、ジュネーブ)

各国に対して人類の安寧を妨げるとされる人為的な気候変化の予見とその防止策の早急な実施を求め、世界気象機関内に気候関係部局を設置。これが気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の設置につながった。

○ 第 2 回世界気候会議 (1990 年、ジュネーブ)

気候変動枠組条約の交渉作業にあたっての共通の基本認識を提供し、条約交渉の開始につながった。また、気候監視のための枠組 (GCOS、全球気候観測システム) を設けた。英サッチャー元首相他、各国閣僚級が多数参加。

「気候情報に関する東京会議」

- 1 期 日 平成21年7月6日(月)～8日(水)
- 2 場 所 学術総合センター(東京都千代田区一ツ橋2-1-2)
- 3 実 施

主催：国土交通省気象庁

後援：世界気象機関、外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、
環境省、国際協力機構

4 実施内容

<専門家会合>(英語のみ)

○ 基調講演(7月6日)

- ・ 地域気候センターや地域気候予測フォーラム等に関する現状報告
林 久美 (気象庁アジア太平洋気候センター所長)
アルフォンソ・マスカレナス (国際エルニーニョ現象研究センター所長)
アダマ・ディアロ (開発のためのアフリカ気象応用センター所長)
- ・ 国内外の気候予測の利用事例(ベストプラクティス)の紹介
エスター・コンラッド (国際気候社会研究所 アジア太平洋地域プログラムコーディネーター)
ロジャー・ストーン (豪南クイーンズランド大学教授)
竹内 邦良 ((独)土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター所長)

○ 個別課題討議(7月7日)

- ・ アジア太平洋地域(20カ国)の気候情報の提供者と利用者を中心に、地域及び利用分野(農業、水資源管理など)の実情にあった提供・活用体制の構築に向けた施策等について検討

○ WCC-3への提言の採択(7月8日午後)

<公開シンポジウム(7月8日午前)>(日英同時通訳あり)

詳細は、別紙3の通りです。

5 参加者

- アジア太平洋地域の気象機関代表者及び気候情報利用機関代表者
- 世界気象機関、アジア開発銀行、ASEAN事務局、JICA等の専門家
- 世界各地域の気候センター(開発のためのアフリカ気象応用センター、国際エルニーニョ現象研究センター、国際気候・社会研究所)の代表者、気候情報の利活用に関する国内専門家等

※ 専門家会合の詳細については、下記担当にお問い合わせ下さい。

- 6 問合せ先 気象庁総務部企画課国際室 TEL03-3212-8341(内線)2262

「気候情報に関する東京会議」公開シンポジウム

- 1 期 日 平成21年7月8日(水)
時 間 受付・開場 9:00 開演 9:30 終演予定 13:00
- 2 場 所 学術総合センター(東京都千代田区一ツ橋2-1-2)
- 3 実 施 主催:国土交通省気象庁

後援:世界気象機関、外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、
環境省、国際協力機構

4 実施内容

開 会

挨拶 加納 時男 (国土交通副大臣)

「気候情報に関する東京会議の提言について」

佐伯 理郎 (気象庁地球環境・海洋部長)

1) 「第3回世界気候会議について」

アビナシュ・ティアギ (WMO 気候・水部長)

2) 「気象キャスターの情報発信と役割」

半井 小絵 (気象キャスター)

3) 「農業分野における気候情報の利活用の事例」(仮題)

ロジャー・ストーン (豪州南クイーンズランド大学教授)

4) 「今後の気候情報への期待」

木本 昌秀 (東京大学気候システム研究センター教授)

閉 会

挨拶 櫻井 邦雄 (気象庁長官)

※日英同時通訳あり。

5 参加方法 入場無料(定員400名)

※ メール、FAX、はがき、または封書により事前予約が必要です。
詳細につきましては、下記の気象庁HPをご覧ください。

http://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/event/koukai_oubo.html

6 問合せ先 気象庁総務部企画課国際室 TEL03-3212-8341(内線)2262